グランドゼロ

GROUND ZERO JCF

98 冬
2013年12月26日 発行

●低線量被曝
いかに生きるか

JCF

母への手紙

ブラート・オクジャワ（１９２４～１９７９）

訳・神谷さだ子

あなたはモスクワの真ん中、ひとこぶラクダに乗っている
めくるめく哀愁ゆえに頭がくらくらする
窓には―喧騒、
自由は―壁の向こうに、
私とあなたの間には、糸ほどのわずかな断絶
鉄のドアの向こうをノックするのは兵士……
彼を許してください、お母さん、彼は悪くない、
彼は自分の心に罪を持ち込まない
彼は彼自身ではなく―彼は国民なのだ

次世代の若者が拳で振り回される
彼にとってあなたを敵対者と呼ぶのは普通のこと
彼は喜んで仕事に汗を流す……
それとも部屋に座っている？
彼を許してください、お母さん、彼は悪くない、
彼は自分の心に罪を持ち込まない
彼は彼自身ではなく―彼は国民なのだ

たぶんクラスノヤルスクで―あなたの森の料理人
かつて前線の護衛兵ではなかった
彼はあなたを軽く見て、彼はあなたを足蹴に
それ以上、かたくななものについて考えないように
毛皮の外套は暖かく、そう、散歩は寒く……

彼を許してください、お母さん、彼は悪くない、
彼は彼の心に罪を持ち込まない
彼は彼自身ではなく―彼は国民なのだ

指導者はモスクワ河畔の塔に隠れ
恐ろしさのあまりに手が麻痺している

グランドゼロ 98冬

GROUND ZERO JCF

目次

低線量被曝
いかに生きるか

ご支援を下さったみなさまに
2014年新春のご挨拶　＜鎌田實＞　6

福島訪問
日々変わる福島、その中で人々の暮らしは＜横内香苗＞　9

仮設住宅での健康相談と栄養管理事業
～皆でまけない体操を～　＜神谷さだ子＞　14

飯舘に帰るため、できることは自らの手で
＜菅野クニさんインタビュー＞　16

「福島原発被災者支援募金」のお願い　23

ＪＣＦ第98次訪問団・スタディツアーに参加して
＜藤田健＞　24

チェルノブイリ事故から27年のベラルーシを訪ねて
＜湯本雅典＞　27

放射能災禍の地　ベラルーシを訪問して＜野口時子＞　28

ベラルーシの土壌マップ作りに希望を＜菅野クニ＞　30

Teamめとば　新メンバー紹介　32

食品等放射能測定結果　34

連載＆お知らせ

ドイツマインツの脱原発便り　＜近江まどか＞　38

連載随筆「含み合う」　＜宮尾　彰＞　40

母から伝わる食卓　42

モスクワ便り　43

振替用紙のメッセージから　44

ありがとうございました！　46

３ дравствуйте！（事務局広場）　48

カルチャーレビュー　50

インフォメーション　54

低線量被曝
いかに生きるか

福島駅前の線量を測るＪＣＦボランティアスタッフ

厳しい寒波がやってきました。ロシアでは「ジェッド　マローズ（寒波じいさん）がやって来た」と言われる季節です。チェルノブイリ訪問後も、やはり低線量被曝については宿題として抱えたままです。でも、怯まず、出口に向かって行動していきます。

ご支援を下さったみなさまに
2014年新春のご挨拶

鎌田實（JCF理事長）

2013年1年間大変お世話になりました。ご支援ありがとうございました。

2014年、新しい年を迎えます。震災からもうすぐ3年、復興が見えない中で、福島の方は今とても辛い状況になっています。見えない放射能と闘ったり、無視したり、不安に押しつぶされそうになる苦しい状況が、いよいよ募っています。

いつも相手の身になって考えようと思ってきました。でも福島での低線量被曝についてどう考えればいいかは本当に難しい。科学者の誰ひとりとして、これが正しいと言ってくれる人がいません。しかし現実に福島の人達は低線量被曝の続く生活に追いやられているのです。

そんな中で、できるだけニュートラルに、でも子ども達に万が一のことが無いように、ずっと考えて行動してきました。

福島第1原発事故による放射線の影響を調べている福島県の「県民健康管理調査」検討委員会が、2013年11月12日、22万6千人の子どもの検診が終わった時点で甲状腺がんと診断が「確定」した子どもは、前回8月の18人から8人増え26人、「がんの疑い」は32人と発表しました。この数値を見ると50数名の小児甲状腺がんが発生する可能性があります。福島の子どもは36万人、その6割の検診が終わった時点で、28〜50数名に甲状腺がんが発生しているということをどう考えるのでしょうか。県民健康調査委員会は、福島第1原発の事故と関係ないと考えているようです。しかし関係があるとも言い切れないけれど、関係が無いとも言い切れないはずです。

事故後1カ月の時点で弘前大学が浪江町を中心に実施した62人のヨウ素被曝量測定では、5人が50ミリシーベルトを超えました。子どもで最大の被曝は47ミリシーベルトでした。たった62人しか検査していないのです。それも住民を不安に巻き込むからと、検査に対して横やりが入ったといいます。この時、もっと広い範囲を対象に検査をしていれば、直接甲状腺に影響を与えるヨウ素131の被曝量がわかり、因果関係がもっとはっきりしたと思います。元々このデータの被験者が62人と少ないにもかかわらず、甲状腺被曝線量が50ミリシーベルトを超えている人が5人いるということは尋常ではありません。50ミリを超えると甲状

腺がんになる確率が高くなりますし、50ミリシーベルトは安定ヨウ素剤を投与する基準にもなっています。

子ども達の方が一のことを考えると、この甲状腺検査結果が原発事故と関係ないと言い切らず、もしかしたら関係があるかもしれないと考えて、検診の充実とスピードアップすることが重要なのです。

また現在のセシウムの積算量による区域分け対応にも疑問があります。

・帰還困難区域は、年間積算線量が50ミリシーベルト超の地域。

・居住制限区域は、現時点からの年間積算線量が20ミリシーベルトを超えるおそれがあり、引き続き避難を継続することを求める地域。

・避難指示解除準備区域は、年間積算線量20ミリシーベルト以下となることが確実であることが確認された地域。

このような区分けにより、福島では、年間の被曝量を年間1ミリシーベルト以下にしようとするのではなく、20ミリシーベルトでも大丈夫だという意見が一人歩きし始めています。チェルノブイリの汚染地域では、0・5～1ミリシーベルトを放射線管理区域、1～5ミリシーベルトの地域に住む人達で移住を希望する人達には移住権を与え、家や土地を与えています。5ミリシーベルト以上は強制移住地域です。原発事故によって放射能で汚染された地域への対応は、ウクライナ共和国やベラルーシ共和国の方が日本よりも原則的です。

繰り返しになりますが、低線量被曝と健康被害についてはとても難しいのです。できるだけ思い込みにならないように、ニュートラルに発言をしながら、万が一のことを考えて、簡単に「大丈夫」などという発言に対しては批判的な対応をしてきました。

低線量被曝は大丈夫とか、セシウムは怖くないとか福島

鎌田理事長　盛岡での講演会で子どもと一緒に

で言って歩いている人がいます。わずかな放射能でも人によっては負担になったり、血液疾患を起こしたりすることは十分に予想されます。ただ例えばがんになった時に被曝が原因でがんになったと証明することができないだけなのです。要するに原発の事故と健康被害が全く関係ないと証明するのも難しいし、原発の事故が原因と証明することも難しいのです。

ウクライナのドクター達がチェルノブイリの事故のあと、小児の甲状腺がん以外にも脳卒中、心筋梗塞など血管性の病気がふえているとか、甲状腺がん以外のがんもふえているなどのデータを出しています。12月中旬に神谷事務局長、鈴木理事と一緒にウクライナを訪問して、『ナショナル・レポート』の著者の一人イエブゲーニャ・ステパーノヴァ博士、『チェルノブイリの長い影　―チェルノブイリ事故の健康被害―』を書いたホリシナ博士とお会いします。低線量被曝と健康について議論を深めていきたいと思っています。

ＪＣＦは「保養」「放射能の見える化」「スピーディーで充実した検診」、この3つを提唱してきました。何もしないで大丈夫という人を批判して来ました。

子どもを連れて福島に残らざるを得ず、自分の生活基盤を保ちながら、どうしたら自分の子どもを守ることができるかと苦慮するお母さん。念のためにと、もうしばらくは子どもを連れて福島を出ているお母さん。それぞれが苦渋の選択をしています。少しだけでも科学的な判断基準になるものを提供して、自分なりに納得した選択ができるようにしてあげたいと思います。

日本での4年間の研修を終えてイラクに帰国したリカ先生が、劣化ウラン弾と子どもの健康被害について遺伝子研究をさらに深めるために、ＪＣＦが応援して12月上旬2週間、信州大学医学部で研究しています。先生の研究に期待しつつ、早く劣化ウラン弾の使用を世界中で禁止したい。そして原爆も原発もいずれ地球上からなくなる日がくることを祈ります。

その日が来るまで、まず子ども達の命を守り続けていきたいと思っています。

新しい２０１４年、今年も日本チェルノブイリ連帯基金へのご支援をよろしくお願いします。

福島訪問
日々変わる福島、その中で人々の暮らしは……

横内香苗（事務局）

前列左から神谷、横山益子さん、横山邦彦さん、村上さん、後列左端横内

暮れの大掃除を少しずつ始めようと思っていたある日、ファイルの間から一枚のメモが出てきました。

ベッド部屋の外0・9、外側1・5リビング、エアコン下0・8……。それは南相馬の病院で赤ちゃんを出産したばかりのお宅の放射線量をＪＣＦスタッフの加藤君と事務局長の神谷が２０１１年6月末に訪問し測定した時のメモでした。

２０１１年の5月から始まったＪＣＦガラスバッジプロジェクトはその後行政にも伝わり、今では県内各地で使われているようです。レントゲン技師の付けるガラスバッジを市民が日常付けることは不自然なようですが、放射能の見える化が今では暮らしの一部になっています。

現在提供しているガラスバッジの半数以上は郡山市の団体が利用しています。又、南相馬市内の病院でホールボディカウンターで測定を受けた方に対して、病院で生活指導を行っていますので、その時必要な方にもガラスバッジを装着していただいています。

先日ガラスバッジを装着しているＡさんとお会いしました。家族４人がホールボディ検査をした中で自分の値だけが高かったそうです。医師の指導で食べ物などに気をつけ、定期的に測定し数値は減ったそうです。自転車で30分掛けて通勤しているということでガラスバッジを装着してみたということでした。

「ガラスバッジでの測定結果が以前より低くなっていると安心するけど、住んでいる地区は比較的線量が高い地域なので、少しでもどこまでが大丈夫なのかわからない。でも今はここで暮らすことを決めている」と話して下さいました。

放射能の見える化はとても大事だと思います。渡辺病院の池田先生のお話によると、現在甲状腺のエコー検査は検査技師が足りないため、来年4月を目標に検査ができる医師を増やすよう研修を行っているそうです。今後エコー検査できる病院がさらに増える事を期待します。

南相馬市内でのホールボディ検査は学校検診として年2回行われているそうですが大人はまだ受けていない方もいるようです。問題点として、ホールボディ検査をする人が減ってきている、1度受けると2回目以降受ける人が少ない、県にはお金が届いているはずなのに末端には届いていない事等を挙げていました。先生は「長期的な検査ができるようにしたい」とおっしゃっていました。

毎月末、私たちJCFは福島を訪問し、日々変わる福島の様子を伝え続けてきました。

郡山で独自に放射能と向き合っている安全・安心アクションin郡山（以下3a郡山）の方たちも震災後からずっと活動し続けています。大学の講師を招き勉強会、食品の放射能測定、自転車に装着した放射能測定器での環境測定などを行っています。ガラスバッジは現在31人の子供や親たちが装着しています。生活環境による数値の変化を確認することができ、お役に立っているようです。

「県や国に任せられない」と自分たち独自で測定し確認しながら現実と向き合っているお母さんたちです。「基準＝安心　ではありません」とあるお母さんが言っていました。15台のガイガーカウンターも年間を通してお貸ししています。必要な方は3a郡山（電話024―922―3367）までお問い合わせください。代表の野口時子さんは今年JCFの事務局長と共にベラルーシを訪問しました。報告はこのグランドゼロ98号28ページでご紹介しています。

ガイガーカウンターの受け渡しをするボランティアの谷田部裕子さん

権力の恐ろしさ

10月末の訪問では東北震災後、初めて福島に入ったという茨城県東海村の元村長の村上達也さんと共に、小高地区で被災された横山さん宅を訪問させていただきました。村上さんは今年の9月20日に退任されたばかりです。一度現地福島の方のお話を伺ってみたいと思っていたそうですが、退任後やっと願いが叶い、今回の訪問となりました。

横山さんご夫妻の住む小高地区は昭和43年から計画されていた小高、浪江原発（東北電力）の候補地であり、買収が進んでいました。横山さんは建設に反対し、契約は断固断ったそうです。時が経つにつれ契約が進み、最後まで判を押さなかったのは横山さんも含め2軒を残すのみとなったそうです。電力会社はその家の家族構成など詳しく調べ、周りからも圧力をかけたのです。その話を村上さんも頷きながら聞いていました。今回の津波震災で小高地区は大きな被害を被り、横山さんのお宅のある地区はすっかり波に持って行かれてしまいました。さらに原発の爆発により、小高地区は警戒区域となり立ち入りが禁止されました。東北電力は福島第一原発事故の経験から、このまま推進をして行くことは困難とし、今年の3月、小高・浪江原発の計画の取り止めを発表しました。村上さんと横山さんご夫妻の対話の一部を紹介します。

以下　村上達也さん…**村**
横山邦彦さん…**邦**
横山益子さん…**益**

村「結局あなたは子供が好きですか?」ってことなんだよね。人としてやってはならない事がある。ふるさとの意味が震災前とあとでは変わったね、ふるさとという幻想を与えてごまかしている、ふるさとの歌が嫌いになったね。

邦　小高には帰れない。区役所にねずみ取りを仕掛けたけど、

語り合う横山邦彦さん（左）村上達也さん（右）

大きいのはかからない。自然にはかなわないね。

村　「ふるさとに帰れ、がんばれ」と掛け声だけのやり方は古い。国は住む場所を提供し、保証してやって欲しい

（横山邦彦さんが大きく頷く）

邦　若者は他の地でも生きて欲しい。望んだことではないが諦めを選択する。

益　避難した新潟で一緒に避難した友達が亡くなったんです。末期ガンでした。また、仮設の生活は悲惨。原発は恐ろしい！（涙ぐみ声を震わせながら）

　騙されるのはやめましょう。見抜く力をつけましょうよ。国民も企業も耐えるときです。国民全体で分かち合って欲しい！　私たちは耐えますよ。

村　自分の知識で物を言っていたね。少しでも分かろうと思って福島に来た。ここに来て福島の涙を見て横山さん達がどれだけ涙を流したか私にはわからない。原発はダメだと思っている。福島の人が発信して欲しい。怒ってほしい！こんな国だったら滅びると思うよ。国と国民は違うんだ！放射能の怖さより国民を見殺しにする権力の怖さがある。鍬を持ち、畑を耕し、荷物を持って、金は入らないが我々は生きてゆける。これからは地方の時代。東海村がどれだけメリットをもらっていると思う？　大したことないよ。豊かさって何なのかね？

　よく「原発がなくなったら地域経済とかどうするの？」って聞かれるけど、でも、地方自治体１７２０の内、現在原発のある自治体は20だよ。世界は再生可能エネルギーに向かっているのに原発に依存していては他の産業が育たない。知恵を出そうよ。原発が入ると分断されてしまうよ。原発事故以前と以後は違う。

　原発も恐ろしいが国も恐ろしいよ。

　１９９９年の東海村臨界事故の際、村長だった村上さんは独自に避難命令を出しました。当時情報が得られず、避難マニュアルもなかったのです。同じことが今回の福島第一原発事故でも繰り返されています。同じ経験をした村上さんと横山さんご夫妻のお話は未来へのメッセージでもあると思います。

　初めて会ったのにお互い兄弟のように語り合い、食事も兼ねて夕方から始まったお話は４時間にも及びました。ここに紹介したのはほんの一部です。

　日本の原子力エネルギーの発祥の地のリーダーを経験された村上さんのお話にはとても説得力がありました。「国の危うさを感じながら村長を続けてきた」という村上さんは今年の９月20日、任期を迎え４期16年間の村長の勤務を終えました。「仮設に入れたからいいってもんじゃな

い。3年経っても見通しがない。伝えてゆく使命がある」と長年培ったリーダーの目で先を見通し、新たな決意をしている姿が印象的でした。

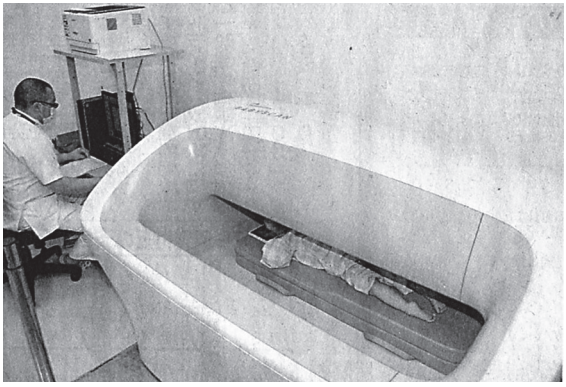
横山さんも長年の戦いが事故という結果で終わるとは想像もしていなかったと思います。当時原発に反対していた意味を今、お子さんたちは身を持って感じ取ったそうです。「体験として物が言える強み」と言ったのは飯舘村の菅野クニさんですが、村上さん、横山さんも同じだと思います。私たちはこの経験を未来に生かさなければなりません。

子供たちの健康診断

11月末に訪問した福島県石川郡平田村のひらた中央病院では、乳児の内部被曝を測定できる検査機器「BABY SCAN（ベビースキャン）」を導入しました。この機械は特注で、多分世界に1台しかない無いと思います。身長130㎝以下のお子さんがうつ伏せ状態で測定できます。約4分の測定を子供が怖がらないようにアンパンマンのシートを機械に貼ったり、スマートフォンを見せながら測定できる工夫がなされていました。検出限界も従来のホールボディカウンターの約6分の1の50ベクレル未満。12月2日から測定は始まっています。

ＪＣＦでは「子供たちを守りたい」と、18歳以下の子供を対象に諏訪中央病院での甲状腺エコー検査、信州大学病院での血液検査と尿検査を行っています。費用は支援してくださる皆様から寄せられた寄付で賄われております。今年1月から12月まで、信州大学病院では32名、諏訪中央病院では29名の子供の診療ができました。遠くは福島から検診に来た方もいます。

皆様の支援ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。



うつぶせ寝で測定するひらた中央病院のベビースキャン（福島民報 11/29 より）

仮設住宅での健康相談と栄養管理事業
～皆でまけない体操を～

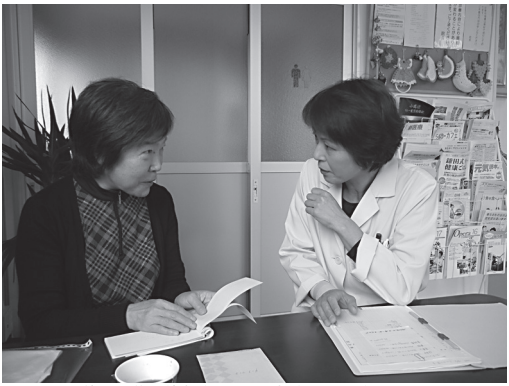
神谷さだ子（ＪＣＦ事務局長）

ＪＣＦが寄付したポータブルエコーを使って甲状腺を診る遠藤医師

福島県南相馬市鹿島区には、東日本大震災の地震で家が半壊してしまった人、津波で家が流されてしまった人、福島第一原発事故で警戒区域になり、避難を余儀なくされた人々の仮設住宅が２１４０戸あり、約５千人が暮らしています。他県に避難したものの故郷に近い所で暮らしたいと南相馬に戻ってきた人もいます。南相馬市小高地区は福島第一原発から20キロ圏内にあります。２０１１年３月12日の一号機水素爆発の後、小高病院は約80名の入院患者を県内外の病院に全員無事に搬送し、15日に閉鎖しました。鹿島区の仮設住宅には小高の方たちが大勢住んでおり、元小高病院院長の遠藤清次先生に強く診療所の開設を望んでいました。

２０１２年５月、遠藤先生は、仮設住宅の一角に絆診療所を開設しました。

仮設での生活は、狭く、壁も薄く不自由な上に、将来の見通しがありません。供給されたテレビの機種が同じなので、リモコン操作をすると隣の家の番組が変わってしまう、と聞いたときには笑うに笑えませんでした。職を失い、仮設も期限付きでは、未来への希望も持てません。


絆診療所の管理栄養士鶴島綾子さんの報告を聞く神谷

遠藤先生は、ストレスからの体調不

安（不眠・暴飲など）や運動不足による生活習慣病（高血圧・糖尿病など）、そして孤独死を防ごうと26カ所の集会場を回って、健康相談会を開いています。仮設の台所では、料理をする気にもならない。栄養バランスが悪くなる。管理栄養士の鶴島綾子さんが、手をかけずにできるバランスのよいメニューを考えて、試食してもらいながら、食事にも気を配るよう、呼びかけます。

震災直後の緊張感から、2年10カ月経た今、日常的な体調と食事を管理することで気持ちも前向きになられることを願います。

毎月末、絆診療所に寄ると、受付で話し込んでいらっしゃる仮設の人たちがいます。あの津波の中で奇跡的に助かった話を、ようやく語りだした方もいる、といいます。診療所の役割は、単に患部を診るだけでなく、仮設住宅に暮らしている人々にしっかり寄り添っていることだと思います。

絆診療所で鎌田理事長　後ろの壁にあるのが「まけないタオル」

「今、僕がやらなかったら、きっと、後悔することになる」開設のとき語った遠藤先生の思いは痛烈でした。

ＪＣＦは公益財団法人ＪＫＡの「平成25年度（復興支援）被災地および被災者受入地域における高齢者、児童、障害者等を対象とした生活支援　補助事業」の助成を受けて、この事業を支援しています。11月末までに20カ所の集会所で、健康相談会が行われました。ポータブルエコーを使って、希望者の甲状腺検査も行っています。さらに、ボランティアの理学療法士さんが協力してくれ、まけないタオル（長さが普通のタオルより短く、頭にも、首にも巻けない）を使って、まけない体操を皆でしています。

道のりは長く平坦ではありません。まけないタオルを両手でたたんだり、伸ばしたり、絆診療所がこの地の人々のより所になるよう、応援していきたいと思っています。

飯舘に帰るため、できることは自らの手で

菅野クニさんに聞く

菅野クニさん

第98次訪問団に参加された菅野クニさんは福島原発事故で飯舘から福島に避難しています。飯舘村は東京電力福島第一原発事故から1カ月も経ってから計画的避難区域に指定されて全村避難となり、今まだ除染も行われず、居住可能となるのはいつになるのかわかりません。

２０１１年４月、福島県飯舘村に「菅野農園」が誕生するはずでした。クニさんは3月に農業高校の教師を退職されるご主人と一緒に、飯舘村の山に自生するナツハゼ（飯舘村では〝やまおとこ〟と呼ばれています）を研究して飯舘村の特産品にする計画を立てていました。ところが、３１１東日本大震災後の東京電力福島第一原発事故により、この計画は消えてしまいました。前年の11月から12月にかけて百本余りのナツハゼの木を山から移植した畑にも放射能が降り、汚染されてしまったのです。さらに全村避難を余儀なくされて移植したばかりの畑の手入れもできなくなってしまいました。それでも90歳に近い夫の両親を元気な姿で飯舘に帰してあげたいと思うのは、線量云々という数字からではなく、人間としての当たり前の欲求からだと菅野さんは言います。

10月末の福島訪問の際、神谷事務局長が菅野さんからお話を聞きました。

菅野さんは１９７８年に飯舘で農業を営む農業高校の教師・菅野元一さんと結婚、87年から飯舘に住むようになりました。89年に飯舘村が「ふるさと創生資金」を使って村の女性を海外に派遣する事業の参加者を募った時、クニさんも応募して女性海外派遣事業「第一回若妻の翼」の研修生として、ドイツとフランスを旅しました。

２００４年に県職員を早期退職する

までに南相馬市にある相双保健福祉事務所などに勤務し、母子保健の中でも思春期教育（性教育）に積極的に関わりました。十代の人工妊娠中絶問題やエイズ問題に取り組み、松本の人形劇「がらくた座」の木島知草さん（グランドゼロ96号保養記事参考）との出会いもありました。

菅野さんは県の保健師としての仕事に打ち込んできましたが、飯館村民としての意識はそんなに強くなかったそうです。でも今、福島市で「ニコニコ菅野農園」を立ち上げて、そこで飯館村の産物を加工しようとしているのはパートナーの影響だと言います。

以下菅野さんの生の言葉をお伝えします

飯館村は3年に一度は冷害に会うと言われる貧しい村ですが、うちの人は「その土地に育つ物が一番その土地に合っているんだ」と言ってジャガイモやカボチャの品種改良に取り組んできました。自分の父親がジャガイモの種芋を栽培して表彰されたこともあり、そんな姿からこの土地に合った作物を作りたいという夫の願いに繋がったと思います。「いいたて雪っ娘」というかぼちゃ、イータテベイクというジャガイモは夫が作った品種です。新しい品種には「いいたて」と名付けたらと夫に提案しました。「〇〇一号とか付けるのではなく、世界に発信できるようにと、一番最初に品種登録したジャガイモは『イータテワールド』としたのですが、周りの友達からは「なんだ、飯舘かぁ」と笑われました。私の中では、「いいたて」って付けて笑われるのが解らず、そんなに変かな、と少しくやしい思いもしました。私はよそ者ですから、よそから来た人の方がその土地のいいものが見えるアンテナがあるのかもしれません。

ニコニコ菅野農園で製造販売しているジャムの原料の一つのナツハゼは、ブルーベリーと同じツツジ科スノキ属

食品加工の拠点ニコニコ菅野農園

で、北海道から九州にかけて分布し、福島県内にも自生する落葉低木。枝木の美しさは春から秋にかけて生け花の花材に用いられるほどです。秋に黒い果実が熟しこれがジャムの原料になります。

　このナツハゼに関してはけっこう長い物語があるんです。

ナツハゼの実（左）　ジャムに加工するとヨーグルトに合う

　20年くらい前に、若妻の翼のメンバーの家に中国から留学生がホームステイしていました。留学生の担任をしていた夫がその家に行ってジャムを食べさせてもらったら、彼女が「このジャムはかびない」と言う。

　ナツハゼについて夫はよく知っていて、ブルーベリーみたいなもんだっていうんですが私にはイメージがわかないんですよ。そもそもかびないって言うことが私にとっては信じられない。トリカブトとか毒キノコと同じような自然毒のイメージで、そういう物が身体にとってどうだろうかと、クエッションマークのままになってました。数年前、福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターの研究で、ナツハゼには目の疲労回復や血液浄化作用などに効果があるとされているアントシアニンが他のベリー類の約6倍あることが証明されたんです。

　それで夫に山に連れて行ってもらって、ナツハゼを食べたんです。それが２０１０年の8月でした。8月はまだ実が青くて硬いですから全然美味しくないんです。9月になっても全く美味しくなかった。ナツハゼは生で食べたら酸っぱくて、私には全然美味しくなく、こんなまずい物と思ったんですが、ジャムにしてみたら美味しいんですよ。土地にあった物の神秘です。これを夫が10月にオランダに行くときのお土産にしたらとても喜ばれたの。

　震災の1カ月前、福島県立医大のＳ先生の、ナツハゼはインフルエンザに効果があるという論文の新聞記事があり、これはもう単なるジャムだけでないかもしれない、と私の中に直感が働きました。その頃知人から、サプリメントになるので、１００kg位なんとかなりませんかと言われ、友達にも呼びかけて１００kg集める見通しが立ったのが２０１１年の２月です。

そして、3月の震災です。この計画は消えてしまいました。

その後福島市に避難してきて、お菓子屋さんでナツハゼを使っているお菓子を見付け、栽培している人がいるということがわかりました。2012年1月、ラッキーなことに原発事故前に収穫したナツハゼを保存していた農家に出会い、譲っていただいてジャムを作り、応援していただいた方々に送りました。とても喜ばれ、商品化することを勧められました。平成24年度内閣府復興支援型地域社会雇用創造事業「新たな一歩プロジェクト」を紹介してくれた方がいて、応募したら採択されました。プロジェクトなんてと面倒な気持ちもあったのですが、人を頼む人件費も出るということで、手伝っていただく方にボランティアではなくお金が払える、と気持ちが切り替わりました。

貯蔵されているナツハゼの加工品

神谷「ツアーの道中、菅野さんの言葉の端々に帰村を考えていらっしゃるように感じましたが」

帰村しますよ。逆にJCFはどの位の線量だったら帰れると思うのか、または帰れないと思うのか、低線量被曝についてどう考えているのかを聞かせて下さい。

神谷「年間1ミリシーベルトを目安に考えようとJCFの理事会では話しています。

今回、菅野さんにもベラルーシで見ていただきましたが、埋葬の村に子どもたちやお年寄りが住み続けているのを私はずっと見てきています。だから、放射線に対する感受性は千差万別だと思っています。自分で暮らす所は自分で選んでいく。国や県は基準値という事を言いますが、基準はあってないようなもの。自分で選んでいかなくてはならない。作物の移行係数もわからない。オープンにされていない。ベラルーシでは放射線学研究所で移行係数を使ったソフトができていて、作る作物を決めていけると言っていましたね。あの後、一緒に渡航した藤田君がレポートで、作付けする土の性質によっても作物に移行する線量は違うと指摘していました。そういう研究が進んで、発表されたら、ある程度汚染された土地にはこういう物を作るとか、対策が立てられますよね。全部ダメだということにはならないんじゃないかなと思っています。できることは何か、

考えていく方が人々の免疫能を高めるためにも必要ではないかと思います。でも、子どもたちと妊婦さんは、気を付けてほしい。被曝しないでほしい。守って欲しい。これで、絶対大丈夫というのはない、そう思っています。ベラルーシで小児甲状腺がんが圧倒的に増えたのも、原因を消去法で消していったら、事故による放射線が残った、と私は理解しています。これだけ被曝したから、どういうがんが発症するという事を科学的にエビデンス（証拠、根拠）を出して証明するのは非常に難しい事だと思う。難しい中でどうやって生きていくか、子どもたちや妊婦さんを守りながらどうやって生きていくかだと思う。

ここに来る途中、飯舘で客土をしていたんですよね。農業者にとって、土は一番大切じゃあないですか。これまで、土作りしてきた土が命なのに、客土でよそから得体の知れない土を持ってきてやっていけるんだろうかと思います」

実は、土については疑問に思っています。我が家の土を調べました。一万ベクレルでした。私がベラルーシで思ったことは、もう空間線量を問題にする時ではないだろう。土壌の線量をきちっと測るべきだと思いました。空間線量は変わる物です。それは除染の効果を語る時もそうなんですが、我々が知りたいことは安全なのか、安心できるのかという物差しです。環境省は（土壌測定を）もう考えませんと言っているのだから、我々が測定して、環境省に言っていく。そういうことだろうと思うんです。

今私は個人線量計を付けています。時系列で線量が解ります。飯舘で上がるのは当たり前。飯舘にいて、帰ってきたらどうなるか。そう見ていくと飯舘に1カ月居たらどれだけの線量を浴びるか解りますよね。これは実測です。私の被曝線量はパソコンですぐ見ることができますし、何月何日何時にどこにいたかも特定できます。結果は放射線専門の先生に見てもらっています。これで、飯舘で生活できるかどうかわかります。私の仲間何人かに付け

スタディツアー　ゴメリ保健局で副局長の話を聞く菅野さん（前列左端）

てもらって調べていきたいと思っています。

また食品検査ですが、測ったらすぐに結果を返してくれと村に言っています。結果返却に時間がかかると、データが（正しくても）改ざんされているのではないかと疑ってしまう。そんな疑いをもたせるやり方をとるべきでない。これはスタディツアーでも学んだことです。（ベラルーシでは測定結果はすぐに返してくれます）

もう一つ作物植え付けについて、何もしないでダメだダメだと言っている。どうして、除染をしていないから村の中で作物作ってはダメっていうのでしょう？　国や県は（役場も）作物への移行実験をやって欲しいと思う。最初から除染は効果ないと落ち込むことはないですよ。やってみればいい。私は国や県がやるかどうかわからない実験を待っていられないから、来年は夫と（内緒で）飯舘で作物植えますよ。そして〈全く除染しないところ〉〈何センチかはぎ取ったところ〉〈他の土を入れたところ〉、それぞれ野菜にどれだけ移行するかやってみたい。線量を測定できる器械はもう借りています。

飯舘では作物は（実験でも）作れないんだと思ってしまったのですが、法律的には畑作物で作ってはならないものはなかったんです。最終的には収穫した物がどの位の線量かが問題なんです。しかし、私まで作付けしてはいけないと思いこまされていたのです。

うちの山のおじいさんの山菜の線量を全部調べてみましが、ウルイなんか20ベクレルなかったですよ。山菜は線量が高いから食べないようにと言われてますが、山菜の種類や場所によって線量は違っており食べられるものもあります。皆さんこういう事知らないでしょう。うちの今の空間線量が室内で0・3マイクロシーベルトで、玄関で0・8、庭は1・2から1・5位になります。畑が2・5位。そして山菜は全部調べてみました。コゴミが今年８００ベクレルでした。コゴミは高いですね。飯舘のナツハゼは冷凍庫に取ってあって、まだ調べていなのですが、去年が１２０位だったから結果が楽しみです。それが調べた実態です。

どうです、神谷さん、こういう結果から飯舘に住めると私は思っていますよ。そういうデータがないから、きっと厳しいんだと思われているんだと思うんですけれど。年間１ミリシーベルトは最終目標だと思います。そこまで下がるには時間がかかると思いますよ。それまであと何年も慣れない生活をするなどの苦労を強いるんですか、と私は聞きたい。だったら、帰れる人たちを帰してあげ、その生活を保障してやった方が、いいと思いますよ。

補償金10万円も問題なんですよね。この結果働かなくてもいいだろうという人がいるのも現実です。お金じゃない支援が大切です。避難当初の半年や1年は、補償金が出た結果、酒とかしか考えられないとその気持ちがわからないわけでもなかった。しかし2年半も経ってしまった今は、そろそろ人間らしい生活に戻りましょう。ただ他所からもらうだけでなく、自分で考えてやっていきましょうと言いたいんです。そこに対する支援。だから今年いただく「避難農業者一時就農等支援事業」の百万円はありがたいです。新しく何かを始めようとする人にそれを実現するための支援が必要だと思います。たとえば、県外に就職したい人の家賃支援とかね。

先週、相馬農業高校の１１０周年の式典があって、南相馬市の原町に行きました。時間があったので、総合病院から小高の方に向かいました。うちの人は地震直後に総合病院まで行って、この先は行けないって言われて帰ってきたので、先週震災後初めて小高区に入って唖然として、

「おれはここまでひどかったとは知らなかった。初めて小高に入って、小高の人たちの苦しみが解る」と。

私はそこに行ったのはもう3回目かな。私の場合はあの風景とそこに居た人とが重なっているんです。電話相談していると、保健所で保健師をしていましたから私は地名でだいたい解るんです。その場所の話をすると「知ってるんですか⁉」って距離が近くなる。「今落ち込んでいるんです」なんていろいろ話して、最後は「ありがとう」になるんですが、これは私しかできないことですよね。私は避難の辛さよりもね、そうしたときに、仕事させてもらっていて、ああよかったなって思います。だから、電話支援をしていて辛いって一度も思ったことないんですよ。

飯舘村に帰るのに安心できる材料だけは、自分の眼で確かめながら揃えておきたいと思っています。

「福島原発震災の被災者支援募金」のお願い

JCF では被災者支援のためのキャンペーンを行っております。
2013 年度は 12 月 10 日現在で、7,557,488 円のご寄付が集まりました。たくさんの応援をありがとうございます。

頂いたご寄付は、引き続き、ガラスバッジプロジェクト諸経費、線量計貸し出しプロジェクト諸経費、被災地や避難された子ども達の健康診断プロジェクト、食品放射能検査経費等に充てて参ります。

以下の郵便振替口座に「震災支援」とご記入の上、応援をお願いします。

口座番号：００５６０－５－４３０２０
口座名：日本チェルノブイリ連帯基金
連絡欄：震災支援

インターネット銀行および他金融機関からの振込用口座番号
０５９（ゼロゴキュウ）店（０５９）
当座　００４３０２０

◎クレジット決済システムの「アナザレーン株式会社」様のご協力で、ＪＣＦのホームページ（http://jcf.ne.jp/）から、カード決済によるご寄付、会費のご送金が可能になりました。毎月々定額のご寄付送金も可能になりましたので、ご利用下さい。なおウェブからのクレジット送金の場合事務局にはメールアドレス情報のみが届きます。お手数ですが、お名前、ご住所等の情報を asama@jcf.ne.jp までお送り下さい。会費・ご寄付データベースに登録して「グランドゼロ」をお送りします。

ＪＣＦ第98次訪問団・スタディツアーに参加して

藤田　健（常総生活協同組合）

ベトカ保健局で説明をメモする野口さん（中央）藤田さん（右端）

私が今回のＪＣＦスタディツアーに参加した理由は、福島第一原発事故による放射能汚染により福島県内はもちろんのこと、私の住む茨城県南地域もホットスポットと呼ばれ、食品の内部被曝による健康被害に悩まれているお母さん（組合員）や農作物の栽培で苦しむ生産者達に対して、フクシマより甚大な放射能汚染があったといわれるチェルノブイリ周辺（今回はベラルーシのゴメリ州）の状況を自分の目で確かめたいと思ったからである。

実際、私が見たゴメリの街は想像以上にチェルノブイリ事故から立ち直っているように感じられました（ゴメリ市内の空間線量は0.1マイクロシーベルト／時以下）。正直、未だに甲状腺がんを含めたがんや白血病で苦しんでいる人々や奇形児として産まれてくる子どもを目にすることになるのではないかとドキドキしながらの訪問でもありました（今回見たところでいなかっただけで実際には未だに放射能汚染による健康被害で苦しんでいる人もいるかもしれません）。

ただ、立ち直っているとはいっても今回見たこと、聞いたことで強く実感したことは、27年経った今でも原発事故による放射能汚染は全くなくなっていないということ。見学したゴメリ市の国立放射線学研究所、保健局、衛生局、自由市場、ベトカ地区の保健局などさまざまな場所で食品の放射能濃度の検査が行われていることや、実際、

一部の食品においてはセシウム137が検出されているということ。地区病院ではホールボディカウンターによる内部被曝量の検査や、個人別による徹底したデータベース管理。また地域の子ども達は年に一度の3週間の保養制度の実施。そして未だに居住禁止区域となっている町、埋葬の村として地図から消された59の村など、忘れてはならない多くの現実の実態を知ることができました。

つまり何も終わっていないということです。しかし事故から27年経ったベラルーシがここまでやっているのに対して、日本はフクシマの事故からまだ3年という短い時間しか経っていないのにも関わらず、国の政策はバラバラで「子ども・被災者支援法」では福島のごく一部の地域しか認定されず、東北や関東など各地で悩み、苦しんでいる親子がないがしろにされたといっても過言ではないでしょう。

確かに、ベラルーシは社会主義国で土地もすべて国有ということもあり、大規模な移住政策を行うことができたことに対して、日本の土地は私有なので賠償という問題が発生し、全く同じ政策はとれないのは分かりますが、それにしても自国に住む国民が苦しんでいる時に、国が何をしてくれるのか（手を差し伸べてくれるのか）ということに対しては大きく違うことに衝撃を受けました。経済大国といわれ、世界第2位、3位の国内総生産（GDP）の日本であっても何の罪のない被災者に対してこの扱い。27年経ったときにベラルーシと同じことをしてくれるのかということは大きな疑問として残りました。そのぐらいベラルーシの政策には日本も取り入れていくべきことが多いと思っています。

今回の視察では多くの施設を見ることができましたが、国立放射線学研究所のアヴェロン所長の「日本は政治家がダメ」「東京でオリンピックをやって大丈夫なのか」という発言などを聞いても世界の目からは見透かされているような感じがしました。汚染水の流出問題ひとつとっても東京オリンピックの誘致や設備投資にかかる数千億の費用をそちらにかけられないのかと思うのは当然のことだと思います。国立放射線学研究所が開発したレインボーシステム（汚染分布マップから作物の移行係数データを入力し、その土地ごとで栽培に適した農作物を選定・管理・利用するシステム）により農民に農業をあきらめさせないことや、加工状況による含有量の変化の分析などからは、「ここで生きていくんだ」という強い気持ちが感じ取れました。

日本では風評といった形で情報が流れ、他から食料を確保すればよいといった差別に近い行動がみられたのも事実です。もう同じ日本でも福島は別

の国のような雰囲気になっているのが感じ取れ、国民全体の思想から考えなければならないし、そのための政治だと思いますが、今の政治家にそれを期待すること自体がダメなのでしょう。

ゴメリ市の保健局の担当者の話では、甲状腺がんやその他のがん（肺、乳、胃）、白血病については事故の影響と認めていましたが心臓疾患等の他の病気は否定しており、かなり慎重な発言に感じられ、個人的には事実は隠しているような印象を受けました。これもフクシマの事故を受けて、改めてチェルノブイリ事故での健康被害が取り上げられること自体を避けているのかもしれません。

今回の視察の中で一番印象に残ったのがベトカ地区病院でした。ベラルーシの中でも汚染の被害がひどいといわれるゴメリ州。その中でも特にひどいといわれるベトカ地区とのことでしたが、地区病院ではナージャ院長を中心に、地域の住人が守られていることに非常に感銘を受けました。毎年の定期検査はもちろんですが、個人ごとのデータがきちんとデータベース化されており、これなら住民はどこに移っても安心だと思いました。保健局とかではなく、身近な病院で管理されていて、何か悪い兆候がみられたらすぐ対処できるという体制は住民に与える安心感が違います。

そんな子ども達をはじめとする住民の健康被害に真摯に取り組まれるナージャ院長に、日本チェルノブイリ基金（ＪＣＦ）は長く支援を続けており、それにより強い信頼関係が生まれていることはナージャ院長と神谷さん（ＪＣＦ事務局長）二人の関係を見れば一目瞭然でした。やはり今後、福島や茨城の子ども達においても、持続的、長期的な健康調査を含めた支援が必要と強く実感しました。

最後に、今回スタディツアーに参加することができ、とても感謝しています。今回の訪問の最大の目的はベトカ地区の病院に心電計を届けるということであったと思いますが、それを感じさせないくらい神谷さんは我々スタディツアーメンバーに気を使って下さいました。感謝しても尽くせないくらいです。食事面だけでなく、移動の際の動きなど、本当に異国の地で我々が困らないように細かい配慮をしていただきました。そして今回一緒に同行させていただいたメンバーとも、新たな関係を作ることができました。ぜひまた、ベラルーシ・ウクライナ（チェルノブイリ）を訪問したいと思える有意義な時間を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。

チェルノブイリ事故から27年のベラルーシを訪ねて

湯本雅典（フリー映像作家）

9月8日から13日にわたりベラルーシゴメリ州、ベトカ地区を訪問する日本チェルノブイリ連帯基金第98次訪問団に同行した。訪問団は、福島県内在住者を含む9名。今回の目的は、現地から要請された「心電計」の無償提供とセットアップ、さらには福島在住者らと現地で活動する医療従事者や母親たちとの交流である。

ゴメリ州自体はチェルノブイリ原発に隣接する州で、ゴメリ市はベラルーシの中で首都ミンスクに次ぐ国内第2の都市である。同市は、ベラルーシ内で最も汚染度が高く1990年代に法律上移住政策が行われ、地図からその姿を消したいわゆる「埋葬の村」が近隣に多く存在する。

ゴメリ市から車で30分ほどの所がベトカ地区だ。ベトカ地区からは59の村が地図からその姿を消した。地区内にある「埋葬の村」祈念碑には、地図から消された村の名前が記されている。今は地図上では存在しない村、バルトロメフカ村を訪問した。今も村に住むエレーナさん（78歳）は、優しく出迎えてくれた。エレーナさん宅の周辺には、かって家が建っていた骨組みが残されていた。

1991年からベトカ地区に赴任し、地域医療の充実に努めたナジェージダ・ジミナ・ベトカ地区病院長にベトカ地区の医療の現状を聞いた。ベトカ地区では事故から27年たった今も、0歳から18歳までの子ども、青少年全員を年1回サナトリウム（療養所）か保養に参加させている。サナトリウムへの参加は国家予算で行われ、2005年までは年2回行われていたという。このようにベラルーシでは、事故後27年たっても子どもたちへの健康維持のための保養政策が続けられている。言うまでもなくその水準の維持は、極めて困難なことである。しかしまた逆に日本が、国あげての保養政策にまったく踏み込めていないことも再認識させられた。

ベトカ地区執行委員会　正面カメラを手にしているのが湯本さん

放射能災禍の地
ベラルーシを訪問して

野口時子（3a！郡山）

福島原発事故直後からよく引き合いに出される『チェルノブイリ』からおよそ１５０㎞北北東に位置するベラルーシ共和国の第２の都市ゴメリ州を訪問しました。このゴメリ州の中でも『ベトカ地区』は放射能汚染が特にひどく59の村が地図から消えてしまいました。そのベトカ地区の唯一の病院を訪問しました。

この「スタディツアー」に参加するにあたって、お願いしていたことがありました。それは、事故後の健康状態がどんなものか？　その時の子ども達はどんな病気に苦しんでいるのか？　その後に生まれてきた子ども達はどんな風なのか？　とにかく事故後の放射能による影響はどんな風になっているかが知りたい!!　この思いを抱えながら、病院長の案内で病院内の全てを見学しました。

この村に住む人は全員が、全身の検査を受けます。そして病院が健康状態を管理します。27年経った今でも年に数人の割合でホールボディカウンターを受診した時に１０，０００ベクレルを超える人が出るのだそうです。そうなった人は病院の管理下の生活が１年続くそうです。そこで改善が見られなければさらに管理が続くことになります。「今年は４人の大人に出たのよ！」と病院長がそのカルテを見せてくれました。病院長は概ね村人の健康状態を把握しているようでした。

次に案内して頂いたのは、病院で働く女性たちが待つ部屋でした。その女性たちは27年前の事故当時に村に住んでいて、その３年後に強制的に移住させられた人たちでした。幼少期から思春期の頃に移住を強いられた彼女たち。でも移住後６年経ってまたこの村に自分の意思で戻ってきた彼女たち。そしてこの村で結婚して子どもを産んで育てている彼女たち。今回の「ベラルーシスタディツアー」のメインイヴェントをセッティングしていてくれました。

幾つかの質問をさせてもらいまし

村のお母さん達に話を聞く野口さん

た。「結婚時に差別は受けませんでしたか？」「病気は？」「子ども達の保養は？」「放射能の不安は？」

『保養』に関しては、事故後20年は年に2回、特に夏休みは3カ月もあり、放射能の心配のない転地へ療養に出掛けるそうです。4歳までは親子は一緒に、それ以上18歳までの全ての子は親元から離れて引率の先生と過ごすとの事。そして5年前からは年に1度になったものの今でも保養に出掛けているとの事。凄く羨ましい!! 国全体で子ども達を守っている！　早く日本もこの制度が確立されればいいのに!! 強く思いました。

それ以外の質問の答えは何だかとても悲しい気持ちになりました。

「事故後の移住の時はパニックでしたが、故郷に戻ってからは穏やかに過ごしています。移住するストレスを思うなら、食の安全が確保できればその方が良いと思います」

ちなみにベラルーシでは食品の測定は日常的な事で、市場で売られている物はもちろん自給自足の生活をする彼女たちには必要な行為なのです。この点でもまだまだ日本は意識が遅れていると思いました。

なぜ、私が悲しいと思ったのか……。

一度は避難して移住して結婚までしたのに……なぜ、子どもを連れて戻ったのか？

移住するストレスはあっても、住み続けるストレスはない!!　……でもそう言った彼女の眼には涙が光っていました。私も泣いていて、彼女のあの涙は何だったのか……。

今なら少しは冷静に話が聞けると思います。今ならもっとたくさん聞きたいと思います。

私の初めてのベラルーシ訪問は郡山に暮らすたくさんのお母さん達の想いを受けてのものでしたが、その想いはまだまだ昇華できていません。もしもう一度ベラルーシを訪問するチャンスがあるなら今度こそはじっくり彼女たちとお話ができたらと思います。「放射能」という同じ悩みを持つ母親同士想いが共有できるかもしれないと思います。その時が来た時は是非また「ベラルーシスタディツアー」に参加させてください。お願いします。

ベラルーシの土壌マップ作りに希望を

菅野クニ（福島県飯舘村）

あの忌まわしい東京電力福島第一原発事故により、私の住む福島県飯舘村は事故から1カ月も経ってから計画的避難区域に指定されて全村避難となりました。今年の7月17日に再編成されて私の住んでいた行政区は居住制限区域となりましたが、今まだ除染も行われず、居住可能となるのはいつになるのか？　90歳に近い夫の両親を元気な姿で帰してあげたいと思うのは、線量云々という数字ではなく、人間としての欲求なのです。

飯舘村は東電福島第一原発から40㎞も離れて、原発立地の恩恵を受けてこなかった「日本で一番美しい村」連合に加盟して、「までいな村」を創ってきました。そのまでいな美しい村に放射能が降り、住む人が消えた村になってしまいました。今までに村の先人達が創り上げてきた村、夫の両親が育ててきた山の恵み、夫が育種してきたジャガイモ「イータテベイク」とカボチャ「いいたて雪っ娘」はどうなるのか？　などなど簡単に割り切れないものがあります。

現在、飯舘村の教育委員を仰せつかっており、保健師として避難者の心のケアにあたっている身として、機会があったらチェルノブイリ事故後の今を自分の眼で見て、聞いて、体で感じてきたいと思っていたところ、7月中旬に今回のスタディツアーを知り、同行させていただきました。

ゴメリ州放射線医学研究所の所長さんのお話から、空間線量ではなく土壌線量を測定してマップ作りをすることで将来の汚染状況を予測できること、いろいろな植物を植えて、植物への移行と減容を調査すること、食物別に規制値を設けること、金属と放射線の関係を研究するなど興味深いお話しがたくさんありました。農業再生が住民帰還の鍵であり、「飯舘村は昨日から住めますよ（注・ロシア的言い回し）」というお言葉は私にとって希望の言葉で

ベラルーシ国立放射線学研究所で菅野クニさん（左端）

した。

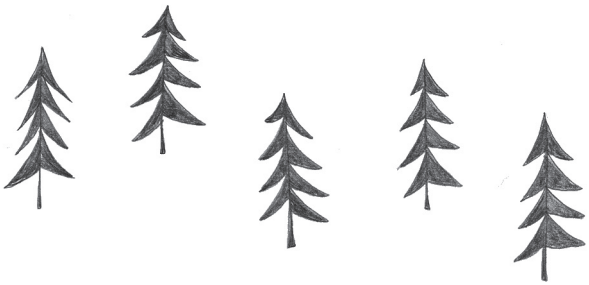
ゴメリ州の中でも汚染がひどく、地図から村の名前が消えてしまったたくさんの村を抱えているベトカ地区では、当時小学生だった移住経験のある女性と、移住しなかった女性のお話も聞くことができ、「福島のお母さんたち、パニックにならないでください」というメッセージは印象的でした。

村の名前が消えてしまったバルトロメフカ村に移住しないで27年間住み続けてきたエレーナさん（78歳）のお元気な姿には勇気をいただきました。

ベトカ地区病院のナージャ院長のお話から、チェルノブイリ原発事故後に住民の健康診査が実施されるようになって、それまで自覚症状が出てからしか診断されなかった病気が増えたのは事実です。特に脳血管疾患と心疾患が増えていると……。その原因を保健師という視点から質問させていただきましたが、放射能が原因ではなく生活習慣が原因だとはっきりお答えいただきました。

ホールボディカウンターで内部被曝検査を体験し、食品検査の現場を見学し、どちらも検査後すぐに結果を本人に渡していました。これは、安心と信頼を得るために大事なことだと思いますし、村に実行していただきたい事だと思います。

今回のスタディツアーに参加するにあたって義父がスポンサーになってくれましたので、ベラルーシ共和国ゴメリ州の滞在3日間の様子を報告しましたら、「飯舘村に帰って生活できるようになる」と彼なりの希望をもったようです。



☆新メンバー紹介

三木瑛奈（信州大学理学部４年）

原発事故や放射能について、恥ずかしいことですが、あまり知識がありませんでした。先輩からお誘いをいただき、これはいろいろ知ることができる良い機会になる、と思いチームめとばの活動に参加しようと思いました。

先輩方や同学年の人たちが積極的に考え、活動している姿はとても刺激になります。新しいコミュニティを持つことができ、うれしいです。

個人的なことを書かせていただきます。兵庫県出身、関西弁はたまに出ますが封印中です。

大学から馬術部に入り、ほぼ毎朝馬に乗っています。高校までは水泳をやっており、最近また趣味として泳ぎ始めました。

三木さんの馬術大会での勇姿

また、今年の夏休みに常念岳に登ったことから登山が好きになったり、来年のハーフマラソンに挑戦しようとしてたり、とにかく体を動かすことが好きです。

飲み込みが遅いこともあるかと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

土本航也（信州大学理学部４年）

新たにＴｅａｍめとばに参入しました、土本航也と申します。

趣味はサイクリング、散歩、天体観測、読書、楽器の演奏を少し、それと旅です。

さて、そんな私が放射能測定チームへの参入を希望したのは放射線そのものに対する興味によります。

私が最初に放射能に興味を持ったのは小学生の頃、チェルノブイリ原発事故後の周辺地域の様子を撮影した写真集を図書館で見つけたときでした。事故当時から20年近く経ったその頃でも無人でひっそりと佇む廃墟などの写真に子どもながら興味を惹かれ、そうなったきっかけである事故がどうして起こったか、また放射線による環境への影響や人体への健康被害を調べて夏休みの自由研究にしたのをよく覚えて

愛車と一緒の土本さん

います。

大学へ入ってからは環境や健康被害より放射線の性質そのものへと関心が向き、現在の研究も放射線に関わりのあることを行っています。そんなとき近所で放射線測定を行っている市民団体があると聞き、今、私たちが住んでいる地域や日本各地の現状を知りたいと思ってＴｅａｍめとばへの参入を希望しました。

現場やその周辺の知識にはまだ分からないことがいろいろとありますが、これから勉強していきたいと思います。皆様、どうぞよろしくお願いします。

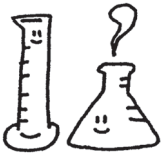
石川圭佑（信州大学理学部４年）

10月からＴｅａｍめとばへ所属することとなった信大物理科４年の石川圭佑です。

編入で大学へ入学したので、松本に来てまだ2年経っていません。大学に入ってすぐの1年間は自分のことで精一杯で社会に目を向ける余裕がなかったのですが、今年度、研究室の先輩にＴｅａｍめとばを紹介していただき、とてもやりがいがありそうだと思い参加させていただくことに決めました。

これから2年間、ただ測定をするだけではなく、自分が今後の日本にどのように貢献できるかを考えていきたいです。また、2年後にＴｅａｍめとばを後輩に胸を張って託せるよう頑張ります。

茶道部の石川さん、忘年会でリクエストに応えて紙皿と割り箸でお手前の披露！



774	10 月 02 日	きな粉	国産	278	18000	ND<8.95	ND<10.4
776	10 月 02 日	米	秋田県	919	57600	ND<1.50	ND<1.68
777	10 月 04 日	キャベツ	群馬県	662	19200	ND<3.43	ND<3.84
779	10 月 07 日	じゃがいも	長野県上伊那郡	681	16500	ND<3.6	ND<4.09
780	10 月 08 日	玄米	長野県安曇野市	995	21600	ND<2.26	ND<2.55
782	10 月 09 日	しらす干し	兵庫県	539	18000	ND<4.34	ND<4.89
783	10 月 18 日	カレールウ	愛知県名古屋市	1027	18000	ND<2.46	ND<2.75
784	10 月 23 日	しょうゆ	アメリカ	1198	18000	ND<2.17	ND<2.43
785	10 月 10 日	白菜	長野県南佐久郡	915	18000	ND<2.75	ND<3.09
787	10 月 16 日	米	宮城県登米市	808	61200	ND<1.59	ND<1.80
789	10 月 18 日	生卵	長野県松本市	850	54000	ND<1.63	ND<1.83

ND とは検出限界値未満のことで、ND< の右の数字が検出限界値です。検出限界とは有為な放射能を検出することのできる下限値で、有為な放射能とは、統計的に見て、バックグラウンド値と明らかに異なる放射能が検出されたと判断できるということです（単位：Bq/kg)。放射能濃度には誤差（± の右の数字）があります。

食品衛生法上の基準値（厚生労働省　医薬食品局食品安全部　平成 24 年 4 月 1 日施行 ）

放射性セシウム	飲料水	10 Bq/kg
	牛乳	50 Bq/kg
	一般食品	100 Bq/kg
	乳児用食品	50 Bq/kg

JCF-Team めとば食品等放射能測定結果（測定結果公表可のデータのみ）

2013 年 9 月～ 12 月

No.	測定日	試料名	産地	重量（g）	測定時間（秒）	セシウム 137 (Bq/kg)	セシウム 134 (Bq/kg)
752	09 月 09 日	キイチゴのジャム	長野県安曇野市	1318	57600	ND<1.12	ND<1.25
753	09 月 12 日	塩こんぶ	兵庫県	474	16200	ND<5.47	ND<6.25
754	09 月 09 日	味付サバ	不明	807	14019	ND<3.37	ND<3.8
755	09 月 10 日	土壌	群馬県高崎市	966	3600	113±21.1	52.6±10.5
756	09 月 10 日	土壌	群馬県高崎市	1129	3600	123±22.9	56.1±12.2
757	09 月 11 日	しその葉	群馬県前橋市	116	68400	ND<9.63	ND<11.0
758	09 月 11 日	カマボコ	不明	938	7200	ND<4.15	ND<4.61
759	09 月 18 日	じごぼう	長野県諏訪市	420	60000	ND<3.11	ND<3.41
761	09 月 13 日	土壌	群馬県前橋市	615	3600	254±46.9	124±23.6
762	09 月 13 日	土壌	群馬県前橋市	734	3600	180±33.4	87.4±18.4
763	09 月 13 日	土壌	群馬県前橋市	549	3600	1120±203	531±97.1
764	09 月 17 日	あられはんぺん	北海道	667	14400	ND<3.90	ND<4.41
765	09 月 26 日	とうもろこし	千葉県船橋市	977	54000	ND<1.48	ND<1.66
766	10 月 01 日	ししとう	千葉県船橋市	701	21600	ND<3.26	ND<3.64
767	09 月 25 日	たまねぎ	千葉県船橋市	717	18000	ND<1.93	ND<2.17
768	09 月 27 日	きゅうり	千葉県船橋市	989	20400	ND<2.37	ND<2.65
769	09 月 20 日	トマトピューレ	不明	1172	16200	ND<2.42	ND<2.74
770	09 月 26 日	米サラダ油	国産	623	12600	ND<4.39	ND<4.97
771	09 月 19 日	白菜	長野県	1035	14400	ND<2.65	ND<2.98
772	09 月 24 日	セロリ	長野県松本市	647	18000	ND<3.65	ND<4.16
773	09 月 25 日	赤ピーマン	長野県	574	18000	ND<4.13	ND<4.66

818	11 月 20 日	セロリ	長野県松本市	734	18000	ND<3.34	ND<3.75
819	11 月 27 日	白ごま	グアテマラ、ニカラグア、ボリビア、パラグアイ等	525	18000	ND<4.60	ND<5.22
820	12 月 05 日	みそ	青森県	977	18000	ND<2.65	ND<2.97
822	11 月 22 日	かまぼこ	不明	996	16800	ND<2.58	ND<2.87
823	12 月 04 日	落ち葉	長野県長野市	767	10800	50.5±9.49	23.9±5.86
824	11 月 28 日	水道水	長野県長野市	962	54000	ND<1.48	ND<1.65
825	12 月 02 日	川の水	長野県長野市	1025	54000	ND<1.38	ND<1.54
826	12 月 02 日	土壌	長野県長野市	1492	7200	10.2±2.43	3.93±2.99
827	11 月 29 日	土壌	長野県長野市	1497	10800	9.24±2.17	3.86±1.33
828	12 月 04 日	山土	長野県安曇野市	621	7200	ND<7.51	ND<8.20
829	11 月 25 日	チキンガラスープ	国産	995	18000	ND<2.58	ND<2.90
830	12 月 04 日	いちじく	埼玉県深谷市	1064	54000	ND<1.38	ND<1.55
831	11 月 26 日	落ち葉	長野県上田市	175	54000	6.32±2.55	ND<8.49
832	11 月 26 日	パセリ	長野県	491	18000	ND<4.82	ND<5.50
833	11 月 27 日	土壌	東京都西東京市	290	57600	686±124	312±56.5
834	11 月 28 日	土壌	東京都西東京市	175	23400	46.8±9.55	26.1±6.38
835	11 月 30 日	玉ねぎ	北海道	894	57600	ND<1.51	ND<1.70
836	12 月 02 日	チンゲン菜	愛知県	916	18000	ND<3.88	ND<4.40
837	12 月 04 日	松本一本ねぎ	長野県	613	18000	ND<3.83	ND<4.37
838	12 月 05 日	乳酸菌飲料	記載なし	1167	55800	ND<1.25	ND<1.39
839	12 月 06 日	ジョア	静岡県裾野市	1041	55800	ND<1.37	ND<1.53
841	12 月 09 日	キャベツ	愛知県	419	18000	ND<5.50	ND<6.20
842	12 月 10 日	ほうれん草	群馬県	628	18000	ND<3.93	ND<4.45

No.	測定日	試料名	産地	重量 (g)	測定時間 (秒)	セシウム 137 (Bq/kg)	セシウム 134 (Bq/kg)
791	10 月 16 日	バター	東京都江東区	902	21600	ND<2.48	ND<2.78
792	10 月 17 日	里芋	宮崎県	1032	10800	ND<3.19	ND<3.61
793	10 月 24 日	土壌	東京都葛飾区	377	7200	25.4±6.02	11.7±4.51
794	10 月 22 日	長ねぎ	長野県松本市	557	18000	ND<4.21	ND<4.72
795	10 月 24 日	土壌	群馬県前橋市	637	3600	960±174	443±80.9
796	10 月 25 日	土壌	群馬県前橋市	625	3600	3500±632	1620±293
799	10 月 28 日	大根	長野県諏訪市	818	18000	ND<2.94	ND<3.31
800	11 月 01 日	土壌	東京都葛飾区	625	7200	482±87.4	226±41.4
802	11 月 06 日	大根	長野県長野市	521	54000	ND<2.62	ND<2.97
803	11 月 07 日	土壌	長野県	1468	57600	8.17±1.57	2.96±0.733
804	11 月 08 日	土壌	長野県長野市	916	18000	15.9±3.16	5.84±1.64
805	11 月 13 日	土壌	長野県松本市	1332	57600	12.9±2.38	4.77±1.02
806	11 月 05 日	なると	日本、アメリカ、オーストラリア、タイ	668	18000	ND<3.46	ND<3.88
808	11 月 06 日	白菜	長野県上田市	750	18000	ND<3.24	ND<3.66
809	11 月 07 日	しめじ	長野県	783	16200	ND<3.29	ND<3.73
810	11 月 11 日	コーンペースト	北海道	937	18000	ND<2.67	ND<3.01
811	11 月 12 日	煮干	鳥取県境港市	473	18000	ND<5.11	ND<5.85
812	11 月 13 日	中濃ソース	不明	1114	18000	ND<2.34	ND<2.62
813	11 月 19 日	海藻ミックス	国産	505	18000	ND<4.71	ND<5.30
814	11 月 15 日	りんご	長野県安曇野市	1044	7200	ND<3.77	ND<4.25
815	11 月 13 日	麹	長野県安曇野市	574	54000	ND<2.34	ND<2.62
816	11 月 19 日	土壌	三重県	920	18000	ND<3.42	ND<3.77
817	11 月 18 日	土壌	長野県白馬村	584	12600	18.6±3.96	7.7±2.53

ドイツ・マインツの脱原発便り

近江　まどか（マインツ友の会）

「カフェ・マヨンセ」誕生のイニシアティブをとったフェアトレードショップ。運営に多くの市民がボランティアとして参加しています。この店だけで年間 500kg の「カフェ・マヨンセ」が売れるとのこと

マインツオリジナルの持続可能なコーヒー

今回は、持続可能な発展をコンセプトに持つマインツオリジナルのコーヒー「Cafe Mayence（カフェマヨンセ）」をご紹介します。

２０００年に誕生したこのマインツオリジナルコーヒー「カフェマヨンセ」は、マインツ市内のフェアトレードショップやエコスーパー、パン屋、教会施設など、マインツだけで購入可能なコーヒーです。

南北問題に取り組む市民団体やフェアトレードショップ、マインツの持続可能な発展を目指す「マインツ・ローカルアジェンダ21フォーラム」、そしてマインツ市がイニシアティブを取り、製品化されました。原料となるコーヒー豆の生産者は、メキシコ・チアパス地方のコーヒー有機農家の共同体「ISMAM」。「ISMAM」は、ＥＵのオーガニック認証基準である「BIO」やドイツのオーガニック認証団体「Naturland」が定める基準を満たす豆を栽培しています。コーヒー豆は公正に取り引きされ、マインツに運ばれ、地域の焙煎工場で加工され製品化されています。

マインツと生産地をフェアにつなぐ

「カフェマヨンセ」のお値段は250g入りで約600円。通常のコーヒーと比べて1割高い程度です。「マヨンセ」はフランス語で「マインツ」を意味しており、「マインツ」の地名が付くことにより、これまで「フェアトレード」に関心を持たなかった人や旅行者など購入層が広がっています。通常のコーヒーでは生産者や労働者が得る利益は僅かであり、南北の格差は広がる一方です。マインツでは、この「カフェマヨンセ」を選択することにより、チアパス地方の社会や経済の成長、そして環境保護を支援することができるのです。

ドイツで広がる持続可能な地域オリジナルコーヒー

このような地域オリジナルコーヒーは、ドイツ全国に存在しています。1990年代半ばに、ドイツ各地で始まった地域の環境、経済、社会の持続可能な発展を目指すローカルアジェンダ21の活動がきっかけとなり生まれ、消費者であるドイツの地域と生産者であるアフリカや南アメリカの地域をフェアに直接つなげるプロジェクトとなっています。ドイツコーヒー連盟によると、ドイツではひとりあたりのコーヒー消費量は年間148リットルであり、ビール消費量（年間112リットル）を超えています。コーヒーはドイツでは暮らしに欠かせない飲料であり、この地域オリジナルコーヒーは、持続可能な発展のために誰でも生活の中で取り入れることができるプロジェクトとして、高い評価を受けています。

マインツ友の会のサッカーチームは、シュトゥットガルトの日本人チームと対戦。スポーツを通じて他の地域の方々とも交流しています

連載随筆

NO.54

含み合う

宮尾 彰

十一月の末、私はあるシンポジウムでぷれジョブという市民活動（連載番号通算四五、四八を参照）のもたらすものについてお話しさせていただきました。

私の出番の前には『インクルージョン（包み込む）社会をめざして』と題した基調講演があり、続いて四名の話者が十分の持ち時間で、各々の活動を紹介したのです。

話の終盤、私は敢えてひとつの疑義を唱えました。

仮に「私たちはあなたたちを包み込みます」という場合、「私たち」とは一体何者なのか？どこに立っているのか？「あなたたち」とは一体何者なのか？どこに居るのか？

私たちにはそれを丁寧に確認する必要があります。そこに真の平等が実現されていることこそ大切なのです。

今にして思えば、私の発言にはその数日前のある出会いが無意識の裡（うち）に働いていたのに違いありません。

ある日、友人から久しぶりに電話が入りました。

高崎にアメリカ先住民のデニス・バンクスという人物が来るので会いに行かないか？というのです。

私はそれまで彼の存在を知りませんでしたが、何となく、その勧誘に導かれ未知の会見に臨むことになりました。

寿司屋の大広間の奥で、大きな身体を小さくして座っていたのが、あのガンジーやキング牧師に続く民族解放運動の指導者として有名なデニス師その人でした。

遠巻きに彼の姿を見つめながら、私は何故自分がここにやって来たのかを、言葉に因らず諒解（りょうかい）したのです。

黙して座りつつ、その魂は空間を支配していました。

デニス・バンクスという名前が、実は彼自身のものではありません。ナワ・カミッグ（「宇宙の中心」の意）こそがインディアンとしての彼の本名です。

彼は静かな口調で、ごく自然に流暢な英語で語ります。その語るところによれば、彼は少年時代に全く強制的にキリスト教主義の矯正施設に入れられ、来る日も来る日も自らの母語を奪われ、侵略者の言語を強要されました。

やがて、思春期を経て『アメリカン・ドリーム』を抱く青年に仕上がりかけた矢先に米軍兵として上陸したのが、他ならぬ日本の地だったといいます。

そこで彼は自分と同じ色の肌を持つ人間と出会い、その経験から「自分自身を破壊することを免れ」ました。

「私は日本人だ！」

この言葉は、真実の叫びであり、彼の存在証明です。

二時間弱、自らを慕う老若男女に囲まれながら話す彼の声を聴いていましたが、私はそこで先住民族としての彼が血を流しているかのように感じました。

断ち切られた伝承が、彼の身体の内に今も息づいているのです。その伝承の本質が、強要された言葉の外皮を突き抜けてこちらにまで届く、という奇跡のような出来事に、私はただひたすら打たれていました。

あの三月十一日を経て、彼の日本に寄せる思いは、その深みを増したようです。

今回の来日でも、先祖からの「七世代先の子どもたちのために歩く」との教えに従い、福島県南相馬市に馴染みの寺を訪ね、上関原発の再稼働と闘う祝島を慕い、全国各地で大地と精霊への祈りを捧げておられます。

奇しくも、この十一月は、八ヶ岳山麓で農耕生活を営みつつ『現代文明という幻想』を告発し続けた押田成人神父が帰天されてから十年の節目の時（カイロス）でした。

作務衣姿の神父が、デニス師の生き身を借りて行き暮れた現代文明の寂寥（せきりょう）の只中を歩かれたのでしょうか。

含み合う。

今、神父の遺したこの何気ない言葉が、身に沁みます。

母から伝わる食卓

野沢菜の簡単しょうゆ漬け

松本に娘と避難してきてから丸２年が経ちました。
こちらに来た年から一昨年、去年と年末に向け野沢菜の塩漬けを作っていました。お漬物から簡単に植物性乳酸菌を摂取できるので嬉しい半面、シンプルな材料で作るので、美味しいと思える味をなかなか作り出すことができなかったり、発酵の頃合を掴むのが難しいなぁと感じておりました。そこで今年は植物性乳酸菌の摂取は手作りキムチに任せて、野沢菜漬けは簡単にできるしょうゆ漬けを作って箸休めとして食べております。
簡単なのにとっても美味しい野沢菜のしょうゆ漬け、ぜひ作ってみて下さい。

＜材料＞
野沢菜　１キロ・昆布　適宜（味が濃いめが好きな方は塩昆布でも良）
・醤油　190cc・砂糖　55ｇ・酢　50cc・みりん　60cc

1. チャック付きポリ袋に昆布とよく洗って３cm 程度に切った野沢菜を混ぜ、なるべく茎が下になる様に入れます。
2. 調味料を鍋で沸騰させ、少しだけ冷ましてから、昆布と野沢菜に回しかけます。しっかり空気を抜いて袋の口を閉じて一晩置いたらでき上がりです。

袋の口を閉じる時はしっかり空気を抜いてください。空気があるとなかなか野沢菜の水分が抜けません。また沸騰させた調味料液がある程度温かい場合は一晩でしっかり漬かりますが、調味料液が冷めてから漬けた場合は、数日おいてから頃合を見て食べて下さい。
野沢菜が手に入りにくい場合は、きゅうりで作ってもおいしいです。こちらもぜひ一度お試し下さい。

（坪根智美）

モスクワ便り

2014年2月7日のソチオリンピック開催まで残り少なくなってきました。2013年9月29日アテネで点火された聖火リレーが続き、オリンピック開会の瞬間に向けて、全ロシアを123日、6万5千キロの道のりを乗り切ろうとしています。

私は、1980年にオリンピックスタジアムに向かう通りに面した我が家の近くを手に聖火を持ったスポーツマンが走り抜けていったのをよく覚えています。その時、沿道では、たくさんの人々がギリシアからやってきたオリンピックの聖火を一目見ようとしていました。

聖火台への点火は、オリンピック開会式のクライマックスです。祝典のシナリオは聖火ランナーの名前同様、絶対秘密です。開催地では、よりすばらしく思い出に残るセレモニーにしようとします。

例えば、ロンドンの第30回オリンピックの聖火台は、長い茎に高くせりあがる花びらの形で、7人の若い聖火ランナーが、英国スポーツの希望を象徴しました。2010年バンクーバーオリンピックの聖火は、16メートルのクリスタルの聖火台に大きな灯火が燃えていました。”オリンピックの灯火”は氷と炎の統合という重要なテーマでした。

2014年2月7日のソチ冬季オリンピックの開会式は、モスクワ時間20時14分に始まり、ロシア冬季オリンピックの歴史の第一歩の年として象徴的なものになるでしょう。開会式は約3時間続きます。確かに私たちを驚かす催しについては誰も知りません。とはいっても、すでに最も大切なことについては明らかです。オリンピックの催しの歴史の中で初めて、第22回冬季オリンピックの開会セレモニーの聖火台は宇宙に行ったトーチによって点灯されるということです！

新しい国際ロシア宇宙船の乗組員、NASAのリチャード・マストラキオ飛行士と日本の宇宙飛行士若田光一さんが、国際宇宙ステーションへ6時間飛行して、トーチをステーションに届けました。11月9日、２人のロシア人宇宙飛行士がトーチを持って宇宙開会式に出発しました。その後、次から次へとトーチは手渡され、あたかも地上のリレーのようです。飛行士たちは、約4時間かけてステーションの入口まで運びました。しかし、宇宙で火は点けませんでした。オリンピック聖火はとても複雑な作りで、水の中でも燃えます。けれども、宇宙開会式で炎を使うリスクは禁物でした。

オリンピックのトーチは、11月11日、宇宙飛行士と共に地上に戻り、再び、点火されました。文字通り、2014年ソチのオリンピック聖火は“宇宙的”シンボルとして灯されるでしょう。

イリーナ・ニコラエワ（モスクワ事務局）

◎げんぱつさよなら缶バッジ&てぬぐいの販売で集めたお金です。是非活動にお役立て下さい。

◎コウレイシャ増加以上のベビーブームになるように神様お願い！

◎原発０にしたいけど、前途多難です。お互いにがんばりましょう。

◎日々のご活躍お疲れさまです。皆様の活動に感謝しています。

◎9月末、郡山市の子ども施設2カ所を見てきました。身に迫る不安に少しでも役立てて下さい。

◎7月に南相馬の野馬追（のまおい）を見に行き、飯舘村を通りました。佐藤直さんの文を読んで、あの時に感じたやり場のない思いが蘇ってきました。早くふるさとに帰れますように……。

◎私も車イス生活です。思いやりのある社会になってと思います。

◎10月に福島県南会津町に行きました。宿泊した旅館は風評被害で宿泊者が年間50人になってしまったそうです。復興への道のり長いですね。

◎想いは言動表現にすることが大切！継続は力になるはず、脱原発がんばりましょう!!

◎子ども達が笑顔になりますように!!

◎少しですみません。いつも思っています、被災者の方々を。

◎福島の人たちに健康と幸いが届きますように！

◎97号ありがとうございました。福島が一日も早く少しでも良くなることを願っています。

◎グランドゼロを読んで、高木仁三郎さんの早口の講演を思い出しました。

◎今も福島の子ども達が外遊びができないという現実を忘れてはいけないと思います。

◎園児23人がパン作りに来ました。その時頂戴した材料代を寄付します。

◎少額ですが長く続けたいと思います。苦しまれている方のお手伝いが少しでもできればと思います。

◎冬が駆け足でやってきます。被災者のみなさんに心を寄せながら……。
◎福島原発被災者のために少額ですが、戦争反対の時にカンパしてもらったものを寄付します。
◎しばらく自分の生活に追われていてグランドゼロが届いてハッとしました。心ばかりですが送ります。寒くなってきますがお身体をご自愛下さい。
◎お世話になります。今年は準年金生活となりますので、賛助会費にさせて頂きます。よろしくお願いします。
◎被災された方達に対してできることは、あきらめずに支援を続けるだけです。
◎背中の痛みが7年ぶりにとれました。私にとっては天地がひっくり返ったような気がしています。いつも心で皆様のことを祈ってます。
◎活動されている皆様もご自愛下さいね。
◎何の力にもなれませんが、少しでもお役に立てたらと、少しですが送らせて頂きました。今後どうなっていくのかとても不安です。
◎すばらしい活動に感服です。また近いうちに長野の事務所に伺えたらいいなーと思います。
◎子ども達の未来が明るくなりますように！
◎子どもの命を消さないでほしい、子どもが国を守るのです。
◎今年もきびしい年でしたが何とかがんばれました。来年も元気で応援します。

JCF料理教室
伝統食を作ってみよう

料理教室には男性も参加

JCFでは「伝統食を作ってみよう」と題して6月からお料理教室を開催してきました。

この企画は、放射能による健康被害に不安をかかえている方もそうでない方も、みんなで病気になりづらい体づくりをを目指します。そのために免疫力を上げるとされている発酵食や菌のパワーを活用しながら体内環境を整えるお料理を、みんなで楽しく作ってきました。このお料理教室は松本に避難してきたお母さんの声から、出発しました。

料理教室では、毎回講師を務めて下さっている染谷恵理子さんが作成する『発酵食と免疫のはなし』と題したミニ冊子を見ながら、発酵食がどのように体に作用するのかをみんなで勉強しました。

6月に行った第一回では漬物をメインとした漬物活用法の紹介とぬか床作り、9月に行った第二回では甘酒をメインにしたお惣菜とデザート作り、そして12月に行った塩麹作りと麹の活用法をメインとした回では松本に避難してきている方々だけではなく地元の方もたくさん交え、畳の部

こんにちは！

講師の染谷さん（左端）

屋で輪になってお鍋とうどんをつつきながらとても和やかな雰囲気で今年最後の回を終えることができました。

『食』は生まれてから息絶えるまでずっと私たちの生活の一部にあります。たかが1食、されど1食。この料理教室を通してみんなで楽しく調理しながら食べられるという事はとても幸せな事だなぁと感じました。

もうすぐ原発事故から3年が経とうとしておりますが、私自身も忘れてはいけない大切な事は胸の奥に留めておきながら、不安な出来事に囚われるだけでなくなるべく笑顔で前進して行こうと思っています。

さて、来年3月にはこのお料理教室の集大成となるお味噌作りを予定しております。

みんなで仕込むお味噌の味は格別だと思うので今から私も楽しみです。

坪根智美（ＪＣＦ事務局）

福島原発事故　県民健康管理調査の闇

Book

日野行介

福島第一原発事故の放射能による住民の健康への影響を調べる福島県の健康管理調査の裏で、専門家、行政担当者たちは秘密裏に会議を繰り返し、事前に調査結果に対する評価をすりあわせ、議事録までも改竄していた。毎日新聞記者である著者が調査報道でその実態を明らかにする。

福島原発事故
県民健康管理調査の闇（岩波新書）
著者：日野行介
発行：岩波書店
定価：760 円＋税

原発メルトダウンへの道

Book

NHK ETV 特集取材班

本書は、２０１１年９月に放送された、シリーズ原発事故への道程「前編　置き去りにされた慎重論」「後編　そして〝安全神話〟は生まれた」、12年６月に続編として放送された「不滅のプロジェクト～核燃料サイクルの道程」の三つの番組の取材記。

原発メルトダウンへの道
― 原子力政策研究会 100 時間の証言
著者：NHK ETV 特集取材班
発行：新潮社
定価：1700 円＋税

福島原発事故　タイムライン 2011 ― 2012

Book

福島原発事故記録チーム

２０１１年３月11日の東日本大震災から決定的破局まで、あの瞬間にどこで何が起きていたのか？　本書は、福島原発事故にまつわる様々な記録・出来事を発生日時順に並べた時系列表。福島原発事故を考える基礎的データベースである。全７０００項目。

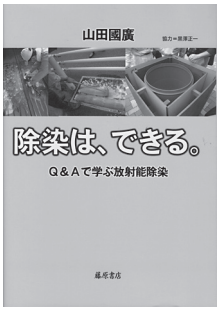
福島原発事故　タイムライン 2011 ― 2012
編者：福島原発事故記録チーム
著者：宮崎知己・木村英昭・小林剛
発行：岩波書店
定価：2500 円＋税

除染は、できる。

山田國廣

Book

福島第一原発事故後、放射能汚染地域に通い、国や業者に依存せず、住民自身が除染する方法を実践してきた著者が、効果があがる具体的な除染方法をわかりやすく説明している。



除染は、できる。
― Q&A で学ぶ放射能除染
著者：山田國廣
発行：藤原書店
定価：1800 円＋税

ボブ・ディラン　ロックの精霊

湯浅　学

Book

「風に吹かれて」「ライク・ア・ローリング・ストーン」など、数々の名曲で人びとを魅了しながらも、つねに人びとの理解を超えていく。その人生の足跡と作品の軌跡をたどり、幻惑するトリックスターの核心に迫る。（本書カヴァーより）

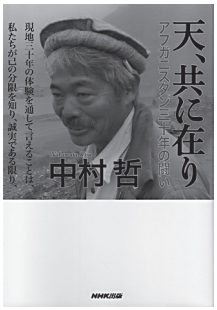
ボブ・ディラン　ロックの精霊（岩波新書）
著者：湯浅　学
発行：岩波書店
定価：760 円＋税

天、共に在り

中村　哲

Book

本書は、医師である著者が、現地活動三十年を振り返り、どうしてアフガニスタンで活動を始めたのか、その後、どうして医療活動以上に、井戸を掘り、用水路を拓くことに力を傾け始めたのか、そのいきさつを紹介したもの。

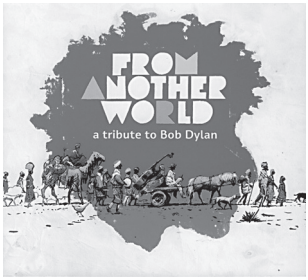


天、共に在り
―アフガニスタン三十年の闘い
著者：中村　哲
発行：NHK 出版
定価：1600 円＋税

もうひとつの世界から
ア・トリビュート・トゥ・ボブ・ディラン

CD

キューバ、インド、エジプト、イラン、ブータン、台湾、アルジェリア、東欧のジプシー・バンド、アルジェリア、アボリジニなど、世界各地のミュージシャンが自分達の言葉（言語）と音楽で、ボブ・ディランの曲をカヴァーした、ユニークな編集盤。



『もうひとつの世界から～ア・トリビュート・トゥ・ボブ・ディラン』
発売：オルター・ポップ
定価：2415 円（税込）

ジャズ・アンド・オール・ザット
サッチャル・ステューディオズ・オーケストラ

CD

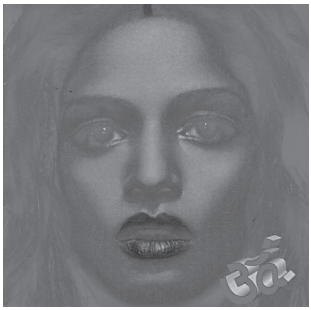
パキスタン・ラホールの演奏家集団によるジャズ&ポピュラー・カヴァー集の第三弾。北インド古典音楽楽器奏者＋西洋楽器奏者＋ストリングス・オーケストラ総勢四十余名が、ジャズ、ボサノヴァの名曲やビートルズ「エリナー・リグビー」などを聴かせてくれる。

『ジャズ・アンド・オール・ザット』
サッチャル・ステューディオズ・オーケストラ
解説：サラーム海上
発売：EL SUR RECORDS
定価：2730 円（税込）

マタンギ
M.I.A.

CD

M.I.A. はロンドン生まれで、両親はスリランカの少数民族タミル人。彼女の4枚目のアルバム・タイトル『マタンギ』はヒンドゥー教の女神をあらわす言葉であり、また M.I.A. 自身の本名でもある。激しいビートと言葉が引き起こす爆発的エネルギーに圧倒される。



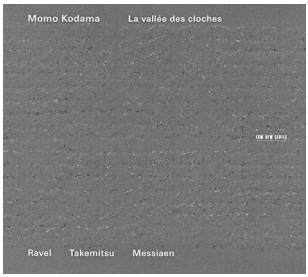
『マタンギ』
M.I.A.
発売：ユニバーサル ミュージック
定価：2300 円（税込）

鐘の谷〜ラヴェル、武満、メシアン：ピアノ作品集

児玉　桃

CD

パリを拠点に演奏活動をしているピアニスト、児玉桃によるラヴェル、メシアンという二人のフランス人作曲家の作品と、その二人から強い影響を受けた武満徹のピアノ作品集。ラヴェル『組曲〈鏡〉』、武満徹『雨の樹素描』、メシアン『ニワムシクイ』を収録。



『鐘の谷〜ラヴェル、武満、
メシアン：ピアノ作品集』
児玉　桃（ピアノ）
発売：ユニバーサル ミュージック
定価：2800 円（税込）

木琴デイズ

通崎睦美

Book

全米の少年少女は、「ヒラオカの木琴」で目を覚ます――単身アメリカに渡り、ラジオのレギュラー番組を持ち、日米開戦の日まで10年9カ月、毎朝演奏を続けた日本人がいた。世界一の木琴奏者・平岡養一、その一途な人生。（本書帯より）

木琴デイズ
― 平岡養一「天衣無縫の音楽人生」
著者：通崎睦美
発行：講談社
定価：1900 円＋税

天上の舞　飛天の美

サントリー美術館

Art

半世紀ぶりに修理中の国宝・平等院鳳凰堂が２０１４年春に落慶を迎えるのを機に、国宝『雲中供養菩薩』や、寺外初となる国宝『阿弥陀如来坐像光背飛天』など、鳳凰堂内にある諸天人を特別公開。飛天誕生の地、インドから中央アジア、中国、朝鮮の作例も展示。

平等院鳳凰堂 平成修理完成記念
『天上の舞　飛天の美』
会期：開催中〜 2014 年 1 月 13 日
会場：サントリー美術館
http://www.suntory.co.jp/sma/

Information

日本チェルノブイリ連帯基金（ＪＣＦ）活動紹介

日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）は 1991 年 1 月に設立されました。1986 年 4 月 26 日に起きたチェルノブイリ原子力発電所の爆発事故の放射能被災地へ、主に医療を中心として支援活動を展開しています。

支援開始当初のベラルーシは、深刻な経済状況で、白血病など病気の子ども達は、十分に治療を受けることができませんでした。衛生管理もできなかったために、多くの子ども達は感染症などで亡くなっていました。JCF は、現地の医師らと話し合いながらプロジェクトを組み、信州大学などの医療従事者と共に着実な支援活動を続けてきました。

そして 2004 年、活動の支援先はイラクへも広げられました。イラクでは湾岸戦争以後に白血病が急増しています。長期にわたった経済制裁後、新たに起きた戦争で極端に物資が不足、子ども達の治療もままならず、多くのいのちが失われています。

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災、そして福島第一原発の事故により、東北地方のみならず広大な範囲で放射線災禍を受けました。ＪＣＦは事故直後から緊急医療支援、外部被曝線量測定、子ども達の診察プロジェクトを行ってきました。今後も子どもの検診や環境線量測定、食品汚染測定など、子ども達を被曝から守るための活動を続けます。

◆ＪＣＦ会費振込口座

正会員年会費（1口）	１０,０００円
賛助会員年会費(1口)	3,０００円
郵便振替口座番号	００５６０－５－４３０２０
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

◆ＪＣＦ／イラク支援振込口座

血液成分分析機購入、医師招聘研修、薬品購入

郵便振替口座番号	００５２０－０－８１０７８
加入者名	ＪＣＦ／イラク支援

グランドゼロ GROUND ZERO JCF

第 98 号

発行日　2013 年 12 月 26 日
発行人　鎌田 實
発行所
　日本チェルノブイリ連帯基金
イラスト題字　貝原 浩
イラスト　樫野ひかり
スタッフ　神谷さだ子
　布山みな子
　横内香苗
　中澤啓子
　坪根智美
協力　寺島仁美
　ＪＩＭ―ＮＥＴ
　風樹　光
印刷　電算印刷

■編集後記

信号待ちで停まった川端の道に一羽のカラスを見た。寒風に濡れ羽色の羽を煽られながら、まなこをしっかと見開き、足を踏ん張って何かを啄んでいた。その姿には一種の風格があり、ふとある友を連想させた。東海村で JCO の事故を経験したことで、＜国は国民を守らない＞そして＜情報は隠される＞ということを身をもって知った彼女は、それでもずーっと反原発を伝え続け、福島原発告訴団の一人でもある。そのめげない行動の原点は「知ってしまったこと見てしまったことを、無かったことには、私はできない。それは自分自身の尊厳の問題だから」と言う。私たちも寒風に耐え、足をふんばって眼を見開いて暮らしていきたい。

（布山）

販売物紹介

Book

・「チェルノブイリからの伝言」
　ＪＣＦ 編（オフィスエム）1200 円

CD

・「小室等／ベラルーシの少女」
　（8cm シングル盤）1000 円

◆がんばらないレーベルＣＤ

・「ふくしま・うた語り」
　1500 円

・「ヴラダン・コチ／ふるさと」
　2500 円

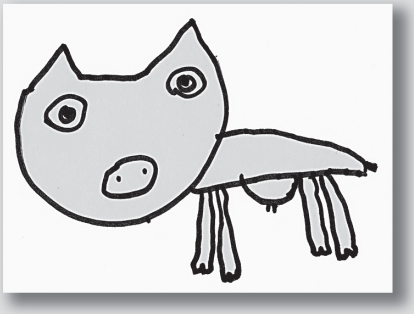
・「坂田明／ひまわり」
　2500 円

ドクターかまちゃんの寒天ゼリー

1000 円

＊販売物の詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

●特定非営利活動法人
日本チェルノブイリ連帯基金（ＪＣＦ）
〒 390-0303
長野県松本市浅間温泉 2-12-12
TEL 0263-46-4218　FAX 0263-46-6229
E-mail　asama@jcf.ne.jp
Website　http://jcf.ne.jp



イマーン　9歳（白血病）

アカベコは、強い牛です。
無病息災を祈って子どもたちに送られる
会津地方に伝わる伝統玩具です。
震災後は福島の復興のシンボルに！
イラクのがんの子ども達にも早く治ってほしいと
アカベコをプレゼントしています。
アカベコをもらったイマーンちゃんは絵をかいてくれました。
この絵は、今年のチョコ募金のパッケージになっています。
再発を2回繰り返したイマーンちゃんが助かる道は
骨髄移植しかありません。
チョコ募金にご協力お願いします

☆　www.jim-net.net/choco/

JCF